

経営比較分析表（令和2年度決算）

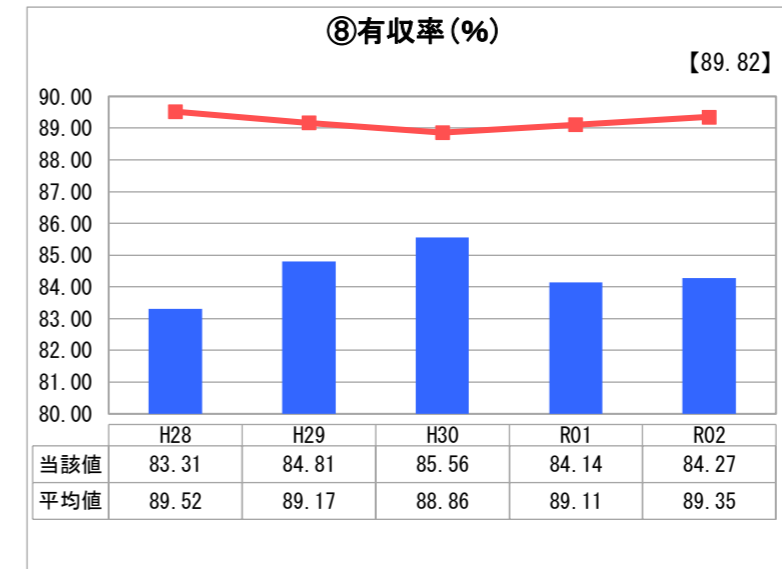
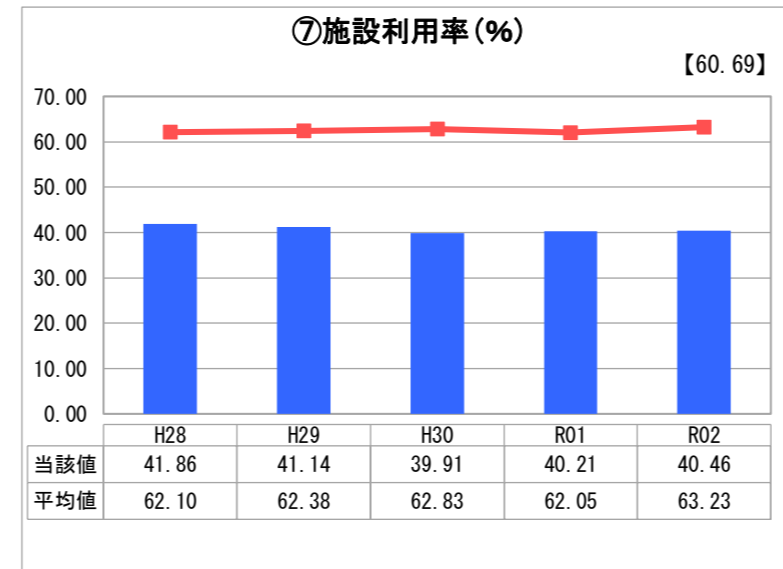
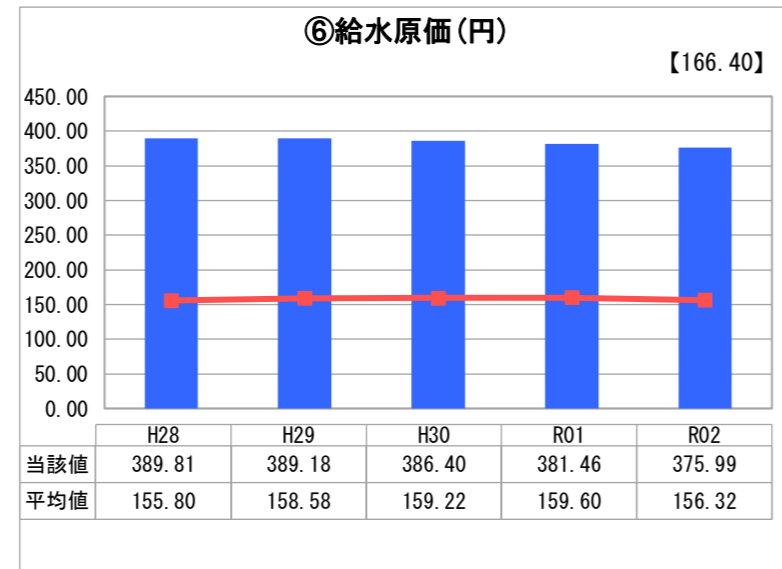
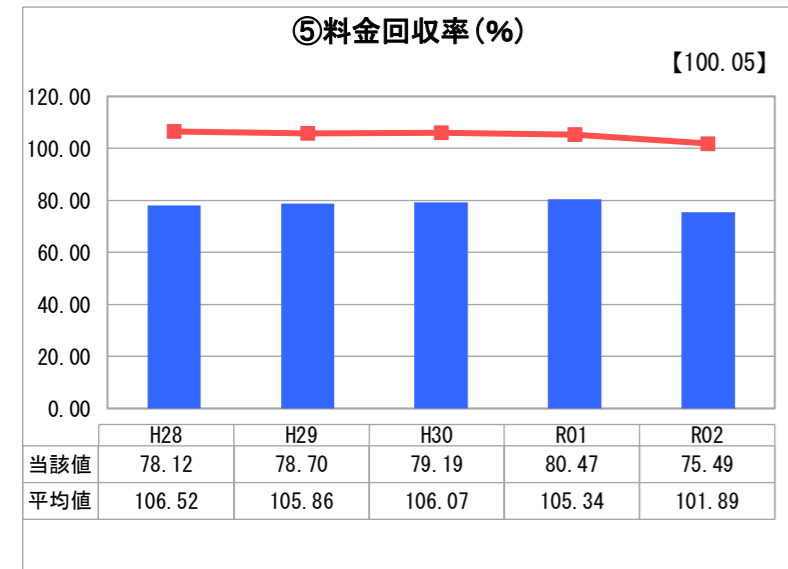
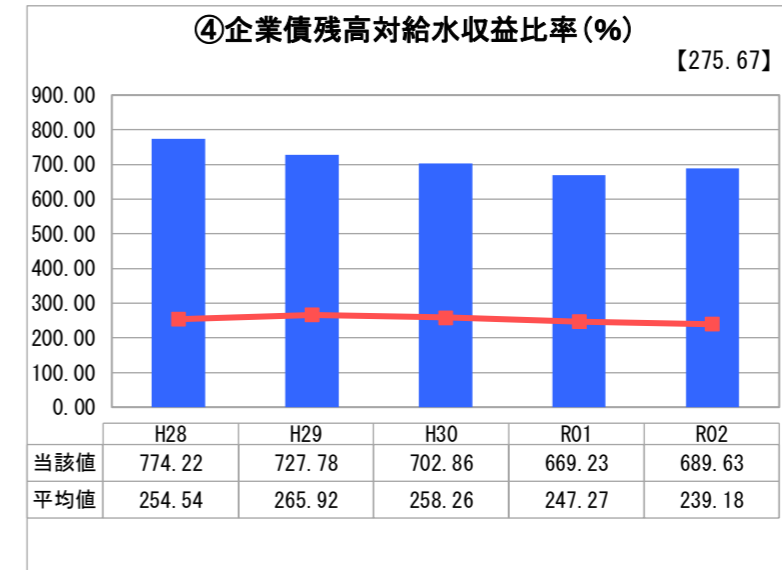
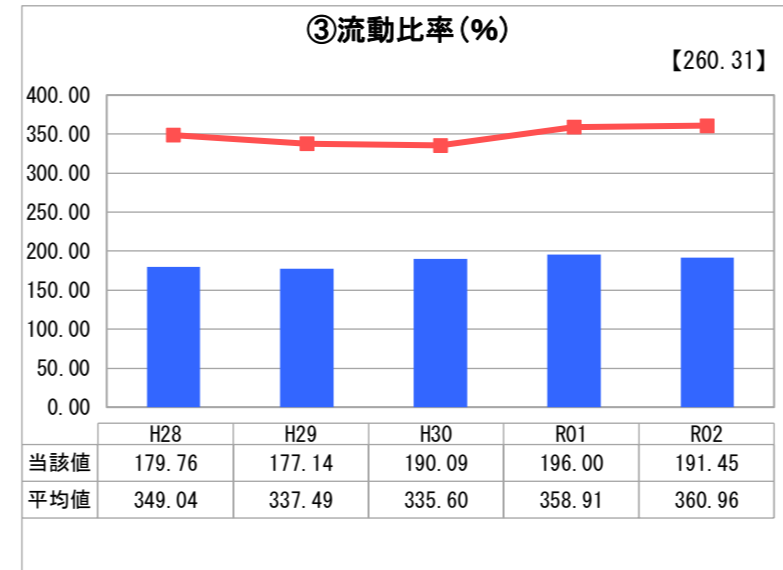
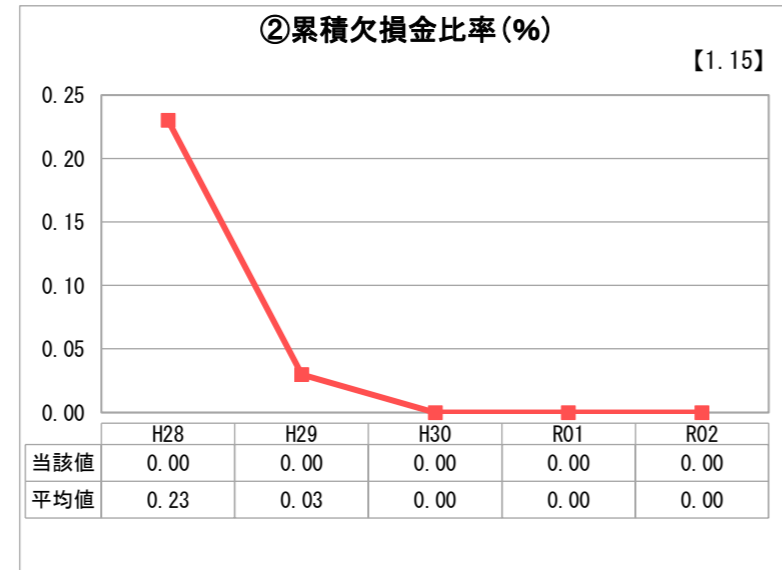
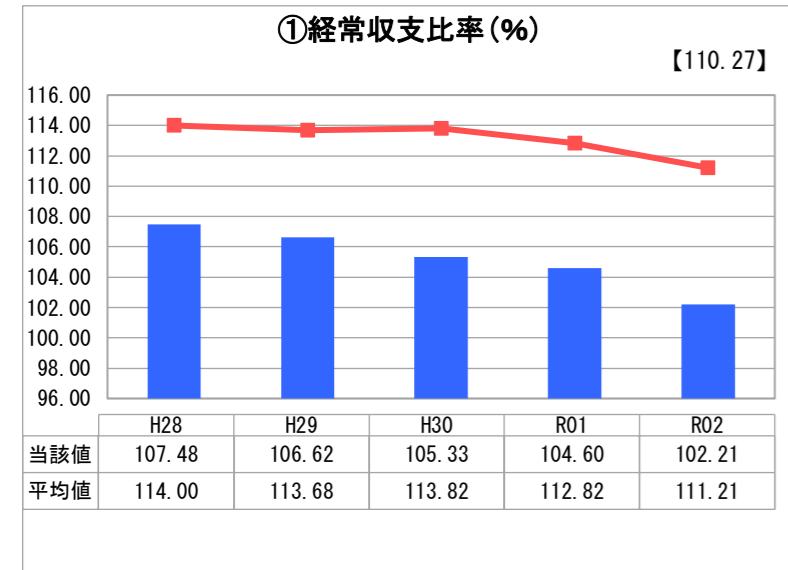
兵庫県 淡路広域水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	民間企業出身
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	67.21	99.53	4,510	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
131,115	358.13	366.11

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率は、人口減少等により給水収益が減少し前年度に比べ下落しているものの、100%以上を維持しています。
- ② 累積欠損金は発生しておらず0%です。
- ③ 流動比率は、流動負債(当年度償還企業債、未払金)の増加割合が流動資産(預金等)の増加割合を上回り、前年度に比べ下落しています。
- ④ 企業債残高対給水収益比率は、新型コロナウイルス感染症を踏まえた料金減免を実施したことにより給水収益が減少し、前年度に比べ下落しています。
- ⑤ 料金回収率も、新型コロナウイルス感染症を踏まえた料金減免を実施したことにより給水収益が減少し、前年度に比べ下落しています。

⑥ 給水原価は、料金減免にかかる県支援策として県受水費の免除(3ヶ月相当分)を受けたことにより、前年度に比べ減額となっています。

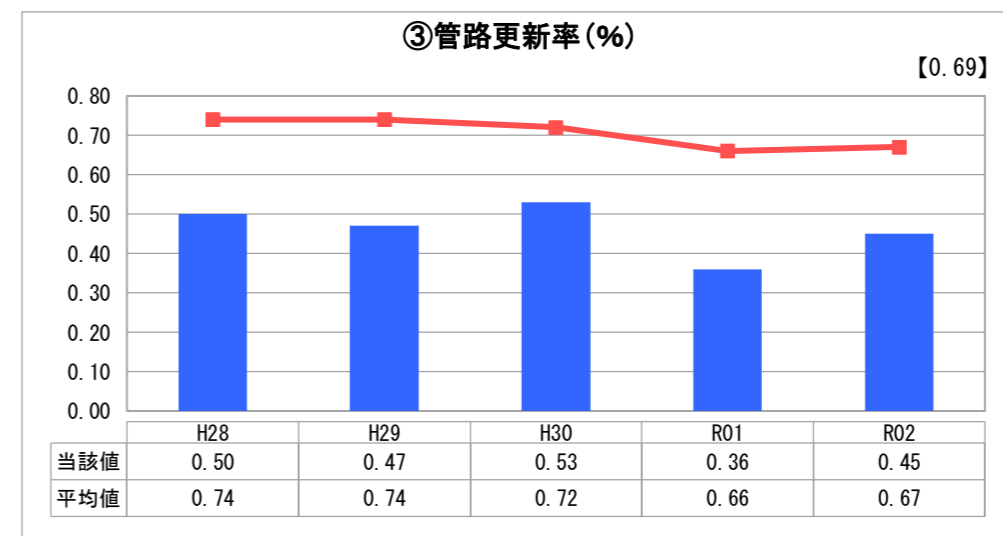
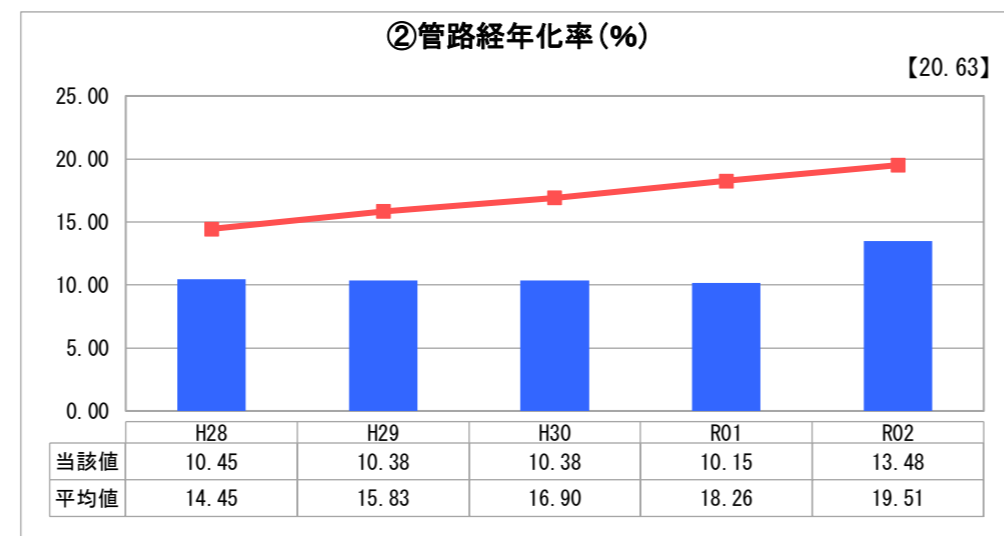
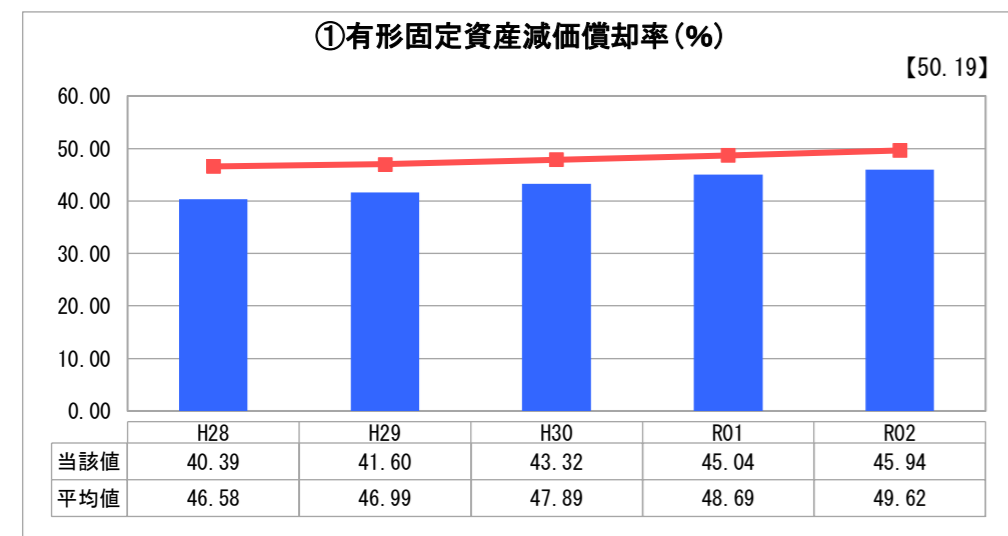
⑦ 施設利用率は、施設の統廃合等を推進したことにより、前年度に比べ数値が改善しています。

⑧ 有収率は、前年度に比べ漏水調査の調査範囲を広げて実施したこと等により漏水量が減少し、数値が改善しています。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率は、類似団体の平均値より下回っているものの、今後は本土導水施設の償却が進むことにより上昇する見込みです。
- ② 管路経年化率は、類似団体の平均値より下回っているものの、今後上昇する見込みです。
- ③ 管路更新率は、浄水場など老朽施設の更新・改修を重点的に行っているため、類似団体のより下回っていますが、数値は前年度より改善しています。

2. 老朽化の状況



全体総括

淡路地域は水資源に乏しく、また山間部を多く有し高低差が大きい地形のため、小規模施設を多く整備しなければならず、類似団体と比較して資本費が高く、高料金対策補助金など水道料金以外の収入割合が大きいのが当企業団の特徴です。

水需要の減少による給水収益の減少については、経営戦略に掲げる施設の統廃合や長寿命化等による投資の合理化、維持費の削減や定員の適正化等による経営効率化を図り、効率的で健全な水道事業経営に取り組んでいきます。